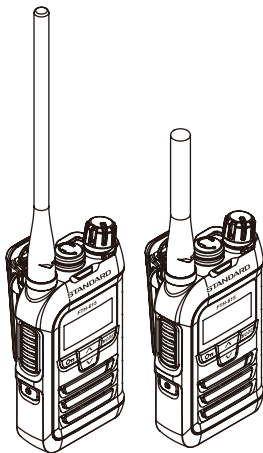




特定小電力トランシーバー

FTH-615/-615L

取扱説明書



FTH-615L

FTH-615

総務省技術基準適合品

免許不要

単3乾電池2本動作

47 チャンネル

交互通話用 20 チャンネル
中継通信用 27 チャンネル

耐塵耐水構造 IP66

耐塵防浸構造 IP67

米国軍事調達規格 MIL-STD-810G

完全防水ではありませんので、水中での使用はできません

L タイプはロングアンテナ仕様です

お買い上げいただき、ありがとうございました。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった後は、大切に保管してください。

このトランシーバーは国内専用モデルです。

海外では使用できません。



EC158U00B

© 2018 パーテックススタンダードLMR合同会社
無断転載・複写を禁ず

Printed in Philippines

目次

はじめに.....	4
特定小電力トランシーバーの保証と責任	4
正しくご使用いただくために.....	6
免責事項.....	6
電波干渉について.....	6
正常に動かないとき～ファクトリーリセット～	7
付属品.....	7
本文中のマークについて.....	8
安全上のご注意.....	9
製品の安全性と電磁波による影響.....	9
その他の安全上の注意.....	13
取り扱い上のお願い.....	13
電池の取り扱いについて.....	14
ニッケル水素電池のリサイクルについて.....	14
防水性能について.....	15
お使いになる前に.....	16
ベルトクリップ / ストラップの取り付け	16
電池の入れかた.....	16
バッテリーインジケータの設定.....	17
電池の持続時間.....	18
電池の取り扱い.....	19
各部の名称と機能.....	20
基本的な操作.....	22
基本的な通話のしかた.....	22
キーをロックする.....	24
キーロックと共にディスプレイを非表示にする.....	24
キーロックにディスプレイ非表示を追加する設定方法	25
一時的にモニターをする.....	26
通話モードの切り替えかた.....	27
グループモード.....	28
DCS コードに切り替える.....	30
秘話モード.....	32
セットメニューの操作.....	34
セットメニュー一覧.....	34
VOX 機能 ～音声で自動送信する～	36
便利な機能.....	38
プログラムキーの設定.....	38
ワンタッチボリューム機能 ～ワンタッチで音量を下げる～	39
コール機能 ～相手をコール音で呼び出したい～	40
エマージェンシー機能 ～アラームで緊急を知らせる～	41
エマージェンシー機能 ～緊急連絡用メモリーチャンネルで知らせる～	42

エマージェンシー機能 ～緊急用コールで知らせる～	43
コールバック機能 ～通話可能か常時チェックしたい～	44
セレコール機能 ～特定の局を呼び出したい～	46
コールサイン機能 ～相手をコールサインで呼び出したい～	51
中継機能 ～通話距離をのばすには～	52
その他の機能設定	54
スキャン機能 ～全チャンネルで受信信号を探す～	54
デュアルレシーブスキャン機能	
～2つのチャンネルを切り替えて受信信号を探す～	55
オートチャンネルセレクト機能 ～空チャンネルを探す～	57
コンパnder機能 ～バックノイズを軽減する～	58
音質切り替え機能	
～高域が効いたメリハリのある音質で受信する～	59
スケルチレベル設定 ～耳障りなノイズを消す～	60
オーディオアクセサリの設定	61
イヤホン断線チェック	62
オートパワーセーブ機能 ～電源切り忘れ防止～	63
ビーブ音の設定 ～キー操作確認音～	64
送信ビーブ音の設定 ～送信操作確認音～	65
送信ビーブ音の音量調整設定	66
PTT ホールド機能 (内蔵マイクのみ)	67
送信禁止機能	
～ガイドシステム子機として使用時に便利～	68
照明ランプの設定	69
LED インジケータの設定	70
エマージェンシーライトの設定	71
スーパーセーブ 1 機能の設定	72
スーパーセーブ 2 機能の設定	73
外部マイク感度の設定	74
内部マイク感度の設定	75
クローン機能 ～同じ設定に複製する～	76
付 録	78
故障かな?と思うまえに...	78
定格	79
アクセサリ	80
キー操作早見表	81
索 引	82

特定小電力トランシーバーの保証と責任

はじめに I. 保証対象及び保証期間：

本特定小電力トランシーバー機器は、モトローラ・ソリューションズ株式会社の品質管理基準のもとに、パーテックススタンダード LMR 合同会社（以下「当社」といいます）で製造されたものです。

当社は、正常な使用状態で下記の特定小電力トランシーバー機器（以下「製品」といいます）の材料上又は製造上の欠陥に対し、ご購入日より以下に示す保証期間内の保証を行います。

トランシーバー本体.....1 年間

当社は本保証規定に従い、保証期間内は無料で製品の修理（純正部品を用いて）、交換を致します。交換した製品または部品は当社の所有となります。

本保証書は製品ご購入者に限り有効であり、第三者に譲渡されるものではありません。当社役員による署名付きの書面での同意がある場合をのぞき、本保証書への追加及び変更に対して、当社はいかなる義務及び責任を負いません。当社と製品ご購入者の間で個別の同意がない限り、当社は製品の取り付け、メンテナンス又はサービスの保証は行いません。当社は、製品に装着又は接続して使用される当社で指定するもの以外のアクセサリを使用した製品の運用に対し、いかなる責任も負いません。

通信システムで本製品が使用される場合、当社、そのシステム全体、サービスエリア、運用等をまとめて本保証規定で保証するものではありません。

II. 保証規定：

本保証書は、製品に対する当社の責任と保証を定めたもので、一切の保証は保証期間内に限定されます。

当社は当該製品の使用もしくは不使用に起因するご購入者の被る逸失利益、業務の中断、機会の損失やこれらに類する損害、または二次的損害等についての責任を負いません。

III. 以下は保証対象外となります：

- A) 製品を正常かつ通常の使用方法でお取り扱いにならないことによって生じた故障及び損傷。
- B) 誤った、又は乱暴なお取り扱い、事故、腐食、火災、水害、又は放置によって生じた故障及び傷。
- C) 誤った、又は認可されていないテスト、使用、メンテナンス、サービス、修理、取り付け、変更、修正、又は調整によって生じた故障及び損傷。
- D) 材料上又は製作上の欠陥に直接起因する以外の理由で生じたアンテナの破損及び損傷。
- E) 説明書に記載の使用方法に反するお取り扱いを受けた製品。

- F) 製品の性能に支障をきたす、又は正常な保証検査及び補償請求確認のための製品テストを妨げるような、認可されていない改造、加工、分解、純正でない部品又は電池の使用と修理（当社が認可していない装置を使った製品に対する追加を含む）がなされた製品。
- G) 製造番号が取り除かれた、又は製造番号が判読できない製品。
- H) 利用者の修理が認められていない部品又はモジュールに付いたシールが外れている製品。
- I) 修理品発送に対する送料。
- J) 製品のソフトウェア／ファームウェアに不法又は無許可の変更が加えられている製品。
- K) 製品の運用に影響を与えない、製品の表面に付いた傷、又は外観上の損傷。
- L) 正常なご使用においての自然消耗、摩耗。
- M) 当社でプログラムされていないメモリーモジュール。
- N) 保証期間を過ぎた保証請求。

Ⅳ. 特許及びソフトウェア規定：

当社供給以外のソフトウェア、装置一式又はその一部を備えた製品又は部品の組み合わせに基づいた特許権の侵害請求に関して一切の責任を負いません。

また、当社は製品に装着又は接続する、当社で指定するもの以外の付属品又はソフトウェアの使用に対していかなる責任も負いません。上記は、製品又は部品に関し、特許権の侵害に関する当社の全責任を提示したものです。法律により、版權で保護された当社のソフトウェアのコピー制作及びコピー流通の占有権など、当社の特定の占有権は保護されています。当社のソフトウェアは販売時に組み込まれている製品内でのみ使用されるものであり、当該製品の当該ソフトウェアはいかなる交換、コピー、流通、修正及び派生物の製造に使用されるものではありません。当該当社ソフトウェアの無制限の変更、修正、再生、流通、リバースエンジニアリング及び当該当社ソフトウェアが有する諸権利の行使などは禁じられています。当社の特許権又は著作権の元でない限り、いかなる許可も含意及び禁反言によって認められるものではありません。

Ⅴ. 保証サービスの受け方：

保証サービスを受けるためには、ご購入を証明するもの（ご購入日と製品製造番号が明記されてあるもの）を添え、ご購入の販売店までご持参又は郵送してください。送料、保険はお客様のご負担になります。

Ⅵ. お問い合わせ先：

本保証規定に関してのご不明な点は、下記記載の当社製品国内総販売元までご連絡下さい。

八重洲無線株式会社 国内営業部

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8

天王洲パークサイドビル

電話：03-6711-4055

URL：http://www.yaesu.com/jp/

はじめに

正しくご使用いただくために

- はじめに
- ◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
 - ◎ このトランシーバーは日本国内専用モデルです。海外では使用できません。
 - ◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
 - ◎ 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。
 - ◎ 本機にマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正アクセサリもしくは当社指定のアクセサリを使用してください。当社純正・指定品以外のアクセサリを使用すると、故障や破損の原因になります。当社純正・指定品以外のアクセサリの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
 - ◎ ニッケル水素電池を充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。当社指定以外の充電器を使用すると、火災や故障の原因になります。
 - ◎ 外部マイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしないでください。コードの断線などにより、故障の原因になります。
 - ◎ 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
 - ◎ 電波法により、トランシーバーやマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。
 - ◎ 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
 - ◎ 通話する際は、マイクから約5センチ離して普通の声量で話してください。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。
 - ◎ 運用が終わりましたら、電池が消耗しないように、トランシーバーの電源を切ってください。一週間以上使用しない場合は、トランシーバーから電池を外してください。
 - ◎ 内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

免責事項

- ◎ 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
- ◎ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル（例：“1ch”と“2ch”）でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

正常に動かないとき～ファクトリーリセット～

はじめに

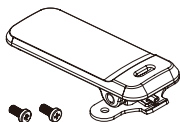
スイッチを押しても反応しないときや、『故障かな?と思うまえに...』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

リセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

- ① 一度、 を左にまわしきり、電源を切る。
- ②   **MODE** を同時に押しながらか  を右にまわし、電源を入れる。
ディスプレイに“Fr”が表示されます。
- ③ **(PTT)** を押します。
工場出荷時の“初期値”に戻ります。

付属品

ご使用になる前に付属品をご確認ください。



ベルトクリップ (CLIP-31)
及び 取り付けビス

- ・取扱説明書（本書）
- ・保証書（本書裏表紙）



ストラップパー

本文中のマークについて

はじめに

■警告と注意マークについて

 警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
 注意	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。
 補足	この注釈は説明文に対しての補足文を示しています。使用中のアドバイスや機能の補足文を記載されています。
 注意	この注釈は説明文に対しての注意文を示しています。人が障害を負う可能性はない注意で、特に機能を使用するときの注意が記載されています。

■キー操作について

キー操作は短く押したときや長く押したときに機能の動作が異なります。

本文中にはキーの操作を下記のように記載されていますので、キー操作を間違えないように操作してください。

“短押し”・・・指定のキーを短く押します。

キーの押し方が短く押す方法と長く押す方法の2種類ある場合に記載されています。

“長押し”・・・指定のキーを1秒以上長く押します。

キーの押し方が短く押す方法と長く押す方法の2種類ある場合に記載されています。

“押す”・・・キーの押し方が1種類で短押しの場合に記載されています。

本文中各キーやスイッチを図で表記します。

PTT スイッチ		ロックキー	
プログラムキー		アップ / ダウンキー	
電源スイッチ / 音量調節ツマミ		モードキー	

安全上のご注意 ～必ずお読みください～

製品の安全性と電磁波による影響

安全上のご注意

一般的な用途での、規制されていない環境における携帯型トランシーバーの電磁エネルギー被爆および製品の安全性に関するガイド

本機を他の使用者に譲渡する場合には、使用者は、必ず本機の電磁波についての取り扱いが書かれた説明書（本書）を添えてください。

このトランシーバーは、離れた2つの間の通信を提供するため、無線周波数帯の中の電磁エネルギー、すなわち電波を使用しています。無線通信用のエネルギーである高周波エネルギーは、電磁エネルギーの一形態であり、例えば日光やX線もその一つに含まれます。しかしながら、高周波エネルギーは、不適切に使用された場合に生物学的損傷を引き起こす可能性が高い電磁エネルギーと同じように考える必要はありません。（例えば、X線の非常に高いレベルは、組織および遺伝物質を損傷する可能性があります。）

当社のトランシーバーは、以下の高周波エネルギーや電磁エネルギーのガイドラインに準拠しています。

・国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）

無線通信のための高周波エネルギーを安全に使用するため、科学、工学、医学、健康、そして産業分野に詳しい専門家が協力し、国際的な基準を策定しています。この基準はビジネスや一般的に使用される無線設備から放射される電波の推奨される値を提示しています。この値については、保護のため通常かなり余裕をもった値になっています。

すべての当社のトランシーバーは、こうした国際基準の値を満たすように設計、製造、およびテストされています。さらに、トランシーバーの製造業者もトランシーバーを使用されるお客様に安全にお使いいただけるような操作手順をお勧めしています。これらは高周波エネルギーについての知識をお客様にご理解いただき、トランシーバーを安全に使用する方法についての簡単な手順を提供するために非常に重要なことです。

安全上のご注意

電磁波エネルギー曝露限度（電波が人体に与える影響において、人体が受けても差し支えない限度）について国際基準に準拠するには、以下の手順に従ってください。

- ・ 電磁波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。
- ・ 送信している間、人体暴露を与えています。連続送信するなど、50%送信比率を超えないようにしてください。
- ・ トランシーバー本体やアンテナから鼻や唇が 2.5cm 以上離れた状態で、トランシーバーのマイクが顔の前に来るように持ちます。アンテナは目から離れた状態にしておく必要があります。
- ・ 当社で指定するアクセサリをご使用ください。



安全上のご注意



高周波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。

- ・ 装着してのご使用について。人体に装着するときは、必ず、当社で指定する本機専用のクリップ、ホルダー、ホルスター、またはケースに装着してお使いください。当社指定品以外のアクセサリをご使用になると、高周波曝露の限界値を超える曝露レベルになる場合がありますので、必ず指定の装着用アクセサリをお使いください。
- ・ バッテリー、オーディオアクセサリについては、必ず当社で指定する付属品または交換用品をお使いください。当社純正・指定品以外のバッテリー、アクセサリ（有線または無線）をご使用になると、適用される高周波曝露に関するガイドライン（ICNRP）を超える場合があります。

電磁相互作用とその両立性

電磁波障害（EMI）を考えずに設計されていた場合、また不適切なシールドや設計が行われた場合、ほぼ全ての電子機器は電磁干渉を受けやすくなります。

医療施設

病院、および医療機関では外部電磁波エネルギーの影響を受けやすい機器を使用することがあります。電源を切るよう指示されている場所ではトランシーバーの電源を切ってください。

航空機

航空機に搭乗しているときはトランシーバーの電源を切ってください。トランシーバーの使用は、航空会社の乗務員の指示に従い適用される規則に従ってください。

ペースメーカー

米国先進医療技術工業会 (Advanced Medical Technology Association) (AdvaMed) は、トランシーバーとペースメーカーの間の距離を少なくとも 15cm は維持することを推奨しています。ペースメーカーを着用されている方は胸ポケットにトランシーバーを入れないでください。干渉の可能性を最低限抑えるためにペースメーカーの反対側の耳で受信してください。やむを得ずトランシーバーを利用する場合は必ず、トランシーバーを着用のペースメーカーから少なくとも 15cm 離しておいてください。何らかの理由により、妨害が生じていることが疑われる場合には、すぐにトランシーバーのスイッチをオフにしてください。

トランシーバーからの干渉の潜在的なリスクについて、医師に相談してください（不十分シールド医療機器が干渉を受けやすくなる場合があります）。

補聴器

トランシーバーは、一部の補聴器に干渉することがあります。干渉する場合は、使用している補聴器メーカーに相談してください。

その他の医療機器

その他の個人用医療機器を使用する場合は、メーカーに相談してください。

安全運転について

運転中にトランシーバーを使用しないでください。

道路交通法、第71条第5号の5の規定により運転中にトランシーバーを手に持って使用することは禁止されています。

事故の原因になりますので、まず安全な路肩に寄せ、停車してから、通信をおこなってください。

音量について

大きな音が原因による聴覚の障害については、最初は自覚することなく、後になって感じられることがあります。長時間大音量で受信すると聴覚に影響を与えますので、最小限音量で、また短時間で使用してください。

聴覚を保護するには、次の事をお守りください。

- ・ 最低限必要な音量で使用してください。
- ・ 周囲の騒音で聞こえない時のみ、音量を大きくしてください。
- ・ タイピンマイクまたはイヤホンを接続する時は、音量を下げてください。
- ・ 長時間、大音量でタイピンマイクまたはイヤホンを使用しないでください。
- ・ タイピンマイクまたはイヤホンなしでトランシーバーを使用する場合は、直接耳にスピーカーをあてないでください。



警告

エアバッグ

- ・ エアバッグの配線との干渉を避けるために、トランシーバーの設置場所を、車両の製造元マニュアルを参照してください。
- ・ エアバッグの部分、またはエアバッグが膨らむ場所にトランシーバーを置かないでください。エアバッグは強い力で膨らみます。トランシーバーがエアバッグの膨らむ場所に置かれている場合、エアバッグが膨らみますとトランシーバーが強い力で押され、車の搭乗者がけがをする原因となります。



警告

発破区域での使用

- ・ 発破区域および雷管の近くではトランシーバーの電源を切ってください。
- ・ 爆発に影響を与えないよう、「発破危険」のように表示されている場所では、トランシーバーの電源を切ってください。
- ・ 爆発の恐れのある場所に立ち入る場合、立ち入る前にトランシーバーの電源を切ってください。
- ・ 爆発のおそれのある場所とは、ボートのデッキの下などの燃料補給・貯蔵場所、燃料や化学薬品の運送または貯蔵施設、および、空気中に穀物、ほこりや金属粉末などの化学物質や粒子が含まれている領域など、危険なガス、蒸気、または埃がある可能性があり、危険であると分類され、とりわけ爆発のおそれのある場所のことを言います。

安全上のご注意

- ・ 爆発の可能性がある場所での、取り付け、取り外し、および充電をしないでください。火花が散ることによってそれが爆発や火災の原因となり、身体的な損傷や死亡につながる恐れがあります。



注意

アンテナ

アンテナが壊れているトランシーバーは使用しないでください。
壊れているアンテナの導体が皮膚に触れ、送信した場合、軽いやけどをすることがあります。



注意

電池

すべての電池は、物的損害または傷害を引き起こす可能性があります。
電池は、金属製のものと共にポケットなどに入れたり金属ケースに入れしないでください。端子が他の金属製のものによりショートし、火傷、発火の危険があります。危険環境下で電池を交換したり、充電しないでください。電池の脱着時に端子から火花が飛び、爆発や火災の原因になることがあります。不正な修理をおこなったり、ラベルの貼り替えを行いますと、その機器の認定が無効となることがあります。



注意

静電気について

静電気が発生しやすい場所・条件でイヤホンをご使用される場合、静電気によって耳の皮膚に電気ショックを感じる場合があります。そのような場合はイヤホンを使用しないようにしてください。



注意

アクセサリーについて

- ・ 当社製機器は、ホームページのリストに掲載されるアクセサリーが認定機関によって認定されています。アクセサリーとの組み合わせは、厳密に遵守する必要があります。
- ・ 接触不良の原因となりますので、アクセサリーを使用しないときには、アクセサリーコネクターカバー / フタを付けてご使用ください。

その他の安全上の注意



警告

運用場所について

ゴルフ場などの野外でトランシーバーを使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので使用しないでください。



警告

その他電子機器との混信

正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。その場合、それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。



警告

衝撃

強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。トランシーバーを持つときは、アンテナを持つと破損することがあります。



警告

使用環境

- ・ 異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。
- ・ 直射日光のあたる場所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境にトランシーバー本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

取り扱い上のお願い



注意

- ・ 充電の際には専用の充電器を使用してください。
- ・ 電池を使用しない場合には、トランシーバー本体から外して湿気の少ない場所で保管してください。
- ・ 電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。
- ・ トランシーバー本体の清掃の際は、糸くずのつかない乾いた柔らかい布で汚れを落としてください。
- ・ トランシーバーを直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。
- ・ 洗剤、溶剤、アルコールなどでトランシーバーを清掃すると、トランシーバーを傷つけたり破損したりすることがあります。

安全上のご注意

電池の取り扱いについて

重要： 思わぬ怪我や損害を避けるために、電池の保管と取り扱いは適切に行ってください。

ほとんどの電池（市販の乾電池やアクセサリーのニッケル水素電池）の問題は、不適切に取り扱ったか、もしくはダメージのある電池を使用し続けたことに原因があります。

下記のガイドラインに従ってご利用ください。



注意

- ・ 高温になる車の中などに電池を放置しないでください
- ・ 電池を落とさないでください。電池を落とすことにより、特に固い床などでは、ダメージの潜在的な原因となります。
- ・ 分解、押しつぶす、穴をあける、裁断する、もしくは電池の形状を変更するような試みはお止めください。
- ・ 電池を水につからないようにしてください。水は電池内部に侵入する場合があります、腐食などを引き起こします。
- ・ 金属類を電池に触れないようにしてください。もし金属類、たとえば貴金属装飾品などが端子に長期間触れたままの場合、電池が高温になる場合があります。
- ・ 高温になる熱源には近づけないでください。過度の熱はトランシーバーや電池にダメージを与えます。高温または、電池から液漏れ、膨張の原因になる場合があります。
- ・ 濡れたり湿った電池をドライヤーや電子レンジのような家電製品、もしくは熱源などで乾かすのは決してしないでください。

ニッケル水素電池のリサイクルについて

アクセサリーのニッケル水素電池はリサイクルができます。

ニッケル水素電池が不要になった場合は破棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。

■使用済みのニッケル水素電池の取扱注意

- プラス端子とマイナス端子をセロハンテープやビニールテープ等で絶縁してください。
- 被覆を剥がしたり、分解しないでください。



Ni-MH

防水性能について

本機は、IEC 国際規格 IP66（防塵等級 6^{※1}、防水等級 6^{※2}）、IP67（防塵等級 6^{※1}、防水等級 7^{※3}）の防塵、防水性能を有しています。この性能を末永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。



注意

- ・ キーのラバー、アクセサリコネクターカバー、電池フタの防水パッキンなどに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- ・ 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ・ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ・ 本機は、水中での使用はできません。
- ・ 濡れている状態で充電しないでください。
- ・ マイク、スピーカー部に尖ったものを差し込まないでください。
- ・ 水滴が付着した場合は放置せず水滴を拭き取ってください。
- ・ 雨の中や水滴が付いたままでの電池の取り付け / 取り外しや、アクセサリコネクターカバーの着脱は行わないでください。
- ・ 防水性能の記載がある付属品・アクセサリを除いては、防水性能を有していません。
- ・ 熱湯、温風（ドライヤーなど）をトランシーバーにあてないでください。
- ・ 極端な温度の変化でのご利用は避けてください。結露のため内部が腐食し故障の原因になりますのでご注意ください。
- ・ ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

製品本体の防水性能を維持するためには、異常の有無に関わらず保証期間経過後、1年に一度のメンテナンスをお勧めします（有償にて承ります）。

過失等、故障内容によっては、保証期間内においても有償修理の対象となる場合があります。

※1：粉塵が内部に侵入しないこと。

※2：波浪または、いかなる方向からの水の強い直接噴流によっても有害な影響を受けないこと。

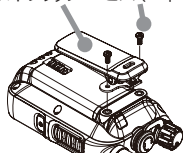
※3：水深1mの水没に30分間没しても有害な影響を受けないこと。

お使いになる前に

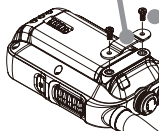
ベルトクリップ / ストラップバーの取り付け

プラスドライバーで付属のビス2本を締め付けてください。

ベルトクリップ ビス(2本)



ストラップバー ハンドストラップ
ビス(2本)



お
使
い
に
な
る
前
に



注意

- 故障の原因になりますので、必ず付属のビスを使用し、プラスドライバーで確実に取り付けてください。
- ストラップバーは、ベルトクリップの付属ビスで取り付けてください。
- 丈夫な市販のハンドストラップを使用してください。

電池の入れかた

- ① ロックレバーをスライドして、ロックを解除しフタを外す。

- ② アクセサリーのニッケル水素電池 (FNB-148) または市販の単三形アルカリ乾電池を入れる。



注意

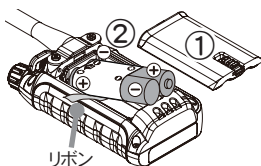
電池の極性 (+) (-) を注意してください。

FNB-148 を使用する場合には、必ず電池の向きと方向を確認してください。

電池ラベルに記載されている「正面」を見える方向にし、

↑ をトランシーバー上方 (アンテナの方向) に合わせて挿入してください。間違った挿入を

すると、思わぬ事故を招くおそれがあります。



↑ をトランシーバー上方に合わせ挿入

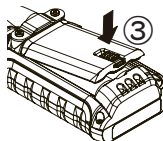
電池を外すときは、リボンを上につ引っ張る。

- ③ フタの上面を先にはめ込み、「カチッ」と音がするまでフタの下部を押して、確実にフタを閉める。



注意

- リボンがケースから外にはみ出さないように、フタで挟んだりしないようにしてください。
- フタを取り付ける前に防水パッキンにキズ、劣化、外れ、汚れがないか確認してください。



バッテリーインジケータの設定

お
使
い
に
な
る
前
に

本機が使用できる電池は「市販の単 3 アルカリ乾電池」と「アクセサリーのニッケル水素電池 FNB-148」です。使用する電池に合わせて設定することで、電池の残量を正確に表示することができます。

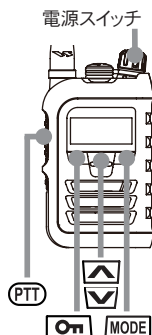
初期値は市販のアルカリ乾電池を使用する“AL”に設定されていますが、アクセサリーのニッケル水素電池 FNB-148 を使用する場合は“nH”に設定してください。

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
セットメニューに切り替わり、“cb - xx”が表示される。
- ③ **MODE** を押すたびに、セットメニューが切り替わり、“bt-xx”を選択する。
 を押すたびにセットメニューが後退します。
- ④  () を押して、使用する電池を選択する。



AL (初期値)	アルカリ乾電池を使用する
nH	アクセサリーの FNB-148 を使用する

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



電池の持続時間

■電池の持続時間を延ばすには

使用できる時間の目安は次のとおりです。本機には2種類のスーパーセーブモードが導入されており、お客様の用途に応じて電池の持ち時間を最適化することができます。

スーパーセーブ1（セットメニュー“bS-xx”：72 ページ参照）：待ち受け時間の消費電流を最小化して電池の持ちを改善します。

スーパーセーブ2（セットメニュー“b2-xx”：73 ページ参照）：受信時のスピーカーからの最大音量を抑えて、電流消費を抑えます。

持続時間の目安

スーパーセーブ機能	単 3 形アルカリ乾電池 (日本製の場合)	ニッケル水素電池 (FNB-148)
スーパーセーブ 1/2 OFF ※ ¹	約 47 時間	約 47 時間
スーパーセーブ 1 のみ ※ ²	約 50 時間	約 50 時間
スーパーセーブ 2 のみ ※ ³	約 52 時間	約 52 時間
スーパーセーブ 1 / 2 両方 ※ ^{2,3}	約 60 時間	約 60 時間

※ 1：定格 250mW で 10 秒送信、10 秒受信、80 秒待ち受けの測定条件

※ 2：スタンバイ時のスリープ時間を長く設定

※ 3：スピーカー出力を 100mW に制限

補足

- 10 秒送信、10 秒受信、80 秒待ち受けの測定条件になります。上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。
- スーパーセーブ 1 またはスーパーセーブ 2、さらに両方を使用すると、受信中心頭切れを起こすことがあります。

電池残量アイコン表示

	まだ使えます。
	少なくなりました。
	残りわずかです。
	電池を交換してください（FNB-148 をすぐに充電してください）。

電池の取り扱い

■市販の単 3 形アルカリ乾電池と アクセサリーのニッケル水素電池 (FNB-148) 共通 の取り扱い注意事項

お
使
い
に
な
る
前
に

- 使用せず保管しておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- 長時間使用しない場合は、FNB-148 またはアルカリ乾電池を取り外してください。
- とときき電池ケースの端子と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。

端子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

- 電池を交換するときは、電源を切ってください。
- FNB-148 または市販の単 3 形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になります。

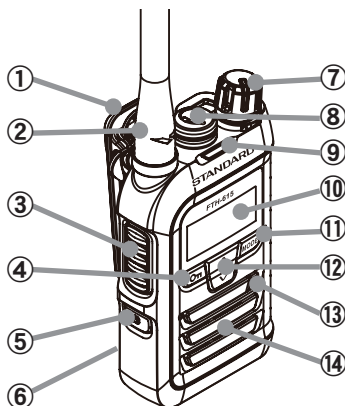
■アクセサリーのニッケル水素電池 (FNB-148) について

- 当社指定以外の充電器や AC アダプターを使用しないでください。火災や故障の原因になります。
- 初めて使用するときは、必ず充電してください。
- 充電のしかたは、「急速充電器セット VAC-73」の取扱説明書をご覧ください。
- 充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- 長期間保管した場合は電池容量が低下していることがあります。必ず充電してから使用してください。
- 定期的に電池ケースを開けて、電池を取り出し異常ないか確認してください。長期間電池ケースに入れておくと、ガスが発生したり液漏れを起こすことがあります。

ニッケル水素電池は液漏れが起こりにくい構造になっていますが、充放電時に電池内部からまれにガスが発生したり、液漏れを起こすことがありますので、電池を外し電池ケース内を換気してください。

各部の名称と機能

各部の名称と機能



- ① ベルトクリップ (16 ページ)
- ② アンテナ
電波法上、取り外しができない構造になっています。
- ③ **PTT** PTT(通話) スイッチ
押している間は通話、放すと待ち受けの状態になります。
- ④ **On** ロックキー
長押しするとキーロックが動作します。長押しするとキーロックを解除します。
- ⑤ **■** プログラムキー (26 ページ、38 ページ)
プログラムキーに割り当てた機能が有効になります。初期値は「モニター」が割り当てられています。
- ⑥ 電池を入れるフタ (16 ページ)
背面に電池を入れるフタがあります。
- ⑦ **🔊** 電源スイッチ / 音量ツマミ
右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。
カチッと音がするまで左へまわし切ると電源が切れます。

⑧ アクセサリーコネクターカバー

アクセサリのスピーカー / マイクホンなどを接続する端子です。



注意

アクセサリを使用しないときは、カバーをしっかり取り付けないと防水にはなりません。

⑨ LED インジケーター

送信時は赤色、受信時は緑色に点灯します。

⑩ ディスプレイ



A. コールバック使用時に点灯 “OK” が点灯・・・通話可能 “圏外” が点灯・・・通話不可能	F. 電池残量表示
B. 送信時に表示	G. オートパワーセーブ表示 オートパワーセーブを ON にすると点灯
C. 受信時に表示	H. 秘話モード時に表示
D. ロック表示 ボタンをロックしたときに点灯	I. 通話中表示
E. 中継チャンネル表示 中継チャンネル時に点灯	J. チャンネル番号表示
	K. セットメニューの表示
	L. グループコード表示

⑪ **MODE** モードキー

押すたびに通話モードが切り替わります。

⑫ **▲** アップキー / **▼** ダウンキー

⑬ マイク

マイクに向かって話します。

⑭ スピーカー

基本的な操作

基本的な通話のしかた

本機には、周囲の状況に応じて選べる3つの通話方法（ノーマルモード、グループモード、秘話モード）があります。

通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは基本となるノーマルモードの通話方法を説明します。

グループモードは 28 ページ、秘話モードは 32 ページを参照してください。

基本的な操作



① 電源を入れる

 を右へまわす。
「ピッ」と電子音が鳴ります。

チャンネル表示

② チャンネルをあわせる

 () を押して、相手と同じチャンネルにする。

③ 音量ツマミ

 を 12 時の位置にあわせ、相手の音声を受信しているときに音量を調節する。

④ 押しながら話す

 を押しながらマイクに向かって話す。

- ・ ディスプレイに“送信”と“通話”が表示されます。
- ・  を放すと、待ち受け状態になり相手の音声を聞くことができます。





電源を入れるとディスプレイに“Er”（エラー）が表示された場合は、外部マイクロホンが「正しく接続されていない」または「スピーカー（イヤホン）が断線している」可能性があります。



通話する前に「接続したスピーカーマイクロホンやタイピンマイクのねじ込み式プラグが確実に締め付けてあるか」または「スピーカー（イヤホン）が断線していないか」点検をしてください（セットメニュー SP-xx：62 ページ）。



- () を短押しすると、チャンネルは下記のように変わります。長押しすると早送りになります。



基本的な操作

- 相手の声が途切れて聞こえるときは、 を短押しして「モニター」にすると聞こえます。もう一度押すと「モニター」が解除されます (26 ページ)。
- 連続して通話できる時間は3分以内で、その間ディスプレイに“通話”が表示されます。
3分間連続して通話し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウンが表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
また、送信が停止した場合、その後の2秒間は (PTT) を押しても「プープープー・・・」と警告音が鳴り送信できません。
- 他局の信号を受信しているときは、送信できません。
ディスプレイに“受信”が表示中、(PTT) を押しても「プープープー・・・」と警告音が鳴り送信できません。ただし“通話”が表示されている間に (PTT) を押すと送信します。

基本的な操作

キーをロックする

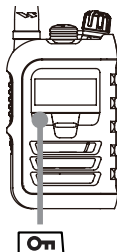
誤ってキー（   ）に触れても設定が変わらないキーロック機能として動作します。

■キーのみロックする

 を長押しする。

「ビピッ」と鳴ってボタンがロックされ、

“On” が点灯します。



■キーロックを解除する

再度  を長押しする。

「ブプッ」と鳴ってボタンのロックが解除され、“On” が消えます。

キーロックと共にディスプレイを非表示にする

セットメニュー（“hd-xx”）を“ON”に設定することで、キーロック時にディスプレイを非表示（、以外）にすることができます（設定は25ページ参照）。

■キーロックとディスプレイ非表示にする

 を長押しする。

「ビピッ」と鳴ってボタンがロック（“On” が点灯）され、3 秒後にチャンネル等が消灯します。

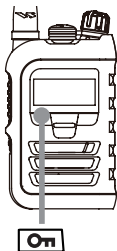
補足

ディスプレイを非表示にしたときには、LED も全て非点灯となります。

■キーロックとディスプレイ非表示を解除する

再度  を長押しする。

「ブプッ」と鳴ってボタンのロックが解除（“On” が消灯）されチャンネル等が点灯します。



キーロックにディスプレイ非表示を追加する設定方法

補足

このセットメニューが“ON” のときは、キーロックの状態でも電源を切った場合でも、恒常的にキーロックとディスプレイの非表示機能は保持されます。

- ①  を左にまわしきり電源を切ります。



- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れます。
セットメニューの“cb-xx”が表示されます。



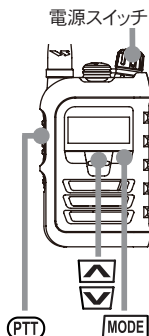
- ③ **MODE** を押して、“hd-xx”を選択します。



 を押すと後退します。

- ④  () を押して、“hd-on”に選択します。

- ⑤ **PTT** を押します。
設定を確定し、セットメニューを終了します。



基本的な操作

基本的な操作

一時的にモニターをする

スケルチ機能を OFF にして、受信信号の状態を一時的にモニターする機能です。

■モニターにする

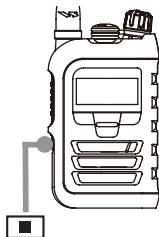
 を短押しする。

■モニターを解除する

再度  を短押しする。

補足

工場出荷時には標準でこの機能がプログラムキーに割り当てられていますが、お客様にて設定を変更すると、この機能に変わって別の機能が動作するようになります。



基本的な操作

通話モードの切り替えかた

通話を行うモード（通話モード）として、次の3通りの方法があります。
周囲の状況に応じて使い分けてください。

- ノーマルモード ▶▶▶ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき（22 ページ）。
- グループモード ▶▶▶ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき（28 ページ）。
チャンネル番号とグループコードが一致すると通話ができます。
- 秘話モード ▶▶▶ 他の人に通話を聞かれたくないとき（32 ページ）。

基本的な操作

■通話モードを切り替える

[MODE] を押すたびにモードが切り替わる。
・初期値はノーマルモードに設定されています。

ノーマルモード



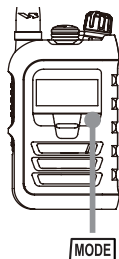
グループモード



ノーマル+秘話モード



グループ+秘話モード

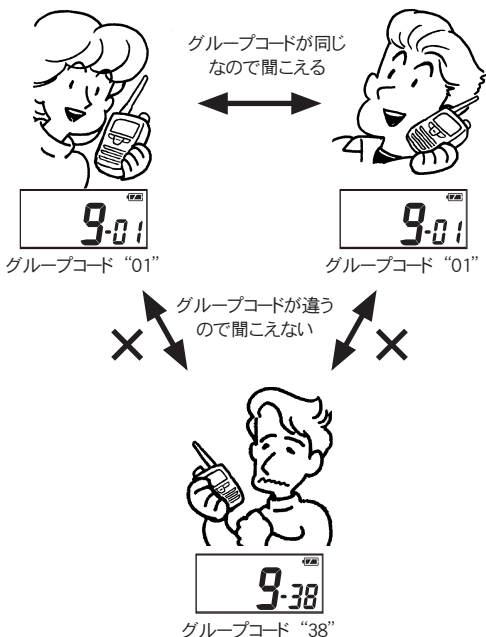


基本的な操作

グループモード

「同じチャンネルで、他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループコードに設定しておくと仲間同士の音声だけが聞こえます。

基本的な操作



■設定のしかた

運用する前に仲間同士で同じグループコードに設定します。
初期値は“01”に設定してあります。

- ① **[MODE]** を押してグループモードにする。

現在設定しているグループコードが表示されます。



- ② **[MODE]** を押しながら **[▲]** を押す。

グループコードが点滅します。

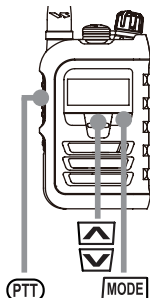


- ③ **[▲]** (**[▼]**) を押してグループコードを選ぶ。

GP-01 ~ GP-47 (47 通り) から選択します。



[▲] (**[▼]**) を長押しすると早送りができます。



基本的な操作

補足

グループコード (47 種類) が不足した時など、グループコードに替えて、108 種類の DCS コード (d017 ~ d754) を使用することができます (30 ページ参照)。

注意

グループコードが 38 通りの旧機種と通話する場合は、GP-1 ~ GP-38 以内で設定してください。それ以外のグループコードを使用すると通話できなくなります。

グループコード



- ④ **[PTT]** を押す。

設定が終了します。

■通話のしかた

“基本的な通話のしかた” (22 ページ) と同様に通話します。

補足

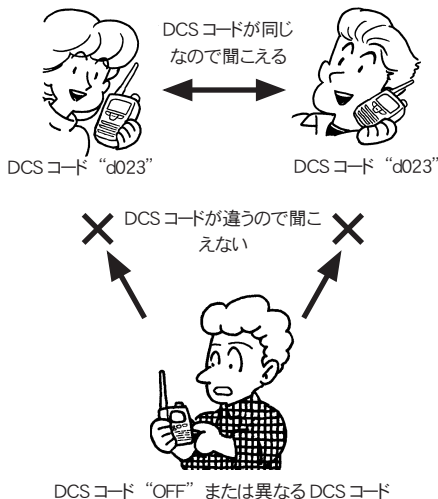
他人の通話が聞こえる場合は、グループコードを変更してください。

基本的な操作

DCS コードに切り替える

グループモードで、グループコード(47 種類)が不足した時など、グループコードに替えて、108 種類の DCS コード(d017 ~ d754)を使用することができます。

基本的な操作



補足

DCS には下記のメリットがあります。

1. 数が多いので、他の使用者と重複して混信を被る可能性が低くなります。
2. コール機能など、通常のグループ機能では使用できない機能もあります。

■設定のしかた

- ① **[MODE]** を押して、グループモードまたは DCS モードにする。

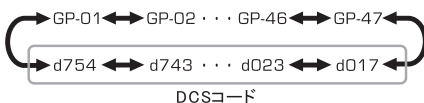
- ② **[MODE]** を押しながら **[▲]** を押す。

現在設定しているグループコードまたは DCS コードが点滅します。

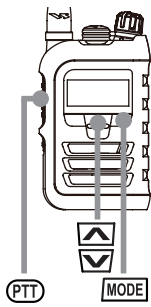


- ③ **[▲]** (**[▼]**) を押して DCS コードを選ぶ。

d017 ~ d754 (108 通り) から選択します。



- ④ **[PTT]** を押す。
グループコードの代わりに “dc” が表示されます。



基本的な操作

■通話のしかた

“基本的な通話のしかた” (22 ページ) と同様に通話します。

■DCS コードの確認のしかた

- ① **[MODE]** を押しながら **[▲]** を押す。

現在設定されている DCS コード “dXxx” が点滅し確認することができます。



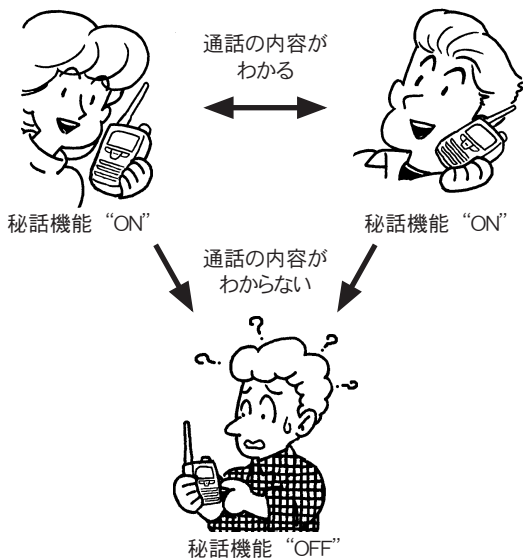
- ② **[PTT]** を押す。
確認前の表示に戻ります。

基本的な操作

秘話モード

秘話モードに設定していない人は、通話内容を聞き取りにくくします。
秘話モードは、ノーマルモード、グループモードのどちらでも使用することができます。

基本的な操作



注意

- 通信の暗号化ではありませんので、仲間同士以外でも同じチャンネルで秘話機能を動作させていれば、通話内容を聞かれる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
- 秘話機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。
- FTH-615/-615L 以外のトランシーバーと通話をする、音色が異なる場合があります。

■秘話モードに切り替える

“**秘話**” が点灯するまで、**MODE** を何度か押す。



基本的な操作

■通話のしかた

“基本的な通話のしかた” (22 ページ) と同様に通話します。

基本的な操作

セットメニューの操作

各セットメニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

- ①  を左にまわしきり電源を切る。

- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。

セットメニューの“cb-xx”が表示されます。

- ③ **MODE** を押すたびに、セットメニューが切り替わる。

設定したいメニューを選択します。

例：“Sc-xx”を選択

補足

On を押すたびに、セットメニューが後退します。

- ④  () を押して、点滅している設定項目を選択する。

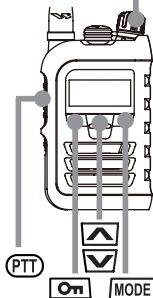
- ⑤ **PTT** を押す。

セットメニューの設定が終了します。

補足

PTT 以外に電源を切っても、セットメニューの設定を終了することができます。

電源スイッチ



セットメニュー一覧

表示	設定項目	選択項目 (太字は初期値)	ページ
cb-xx	コールバック機能の ON/OFF	OFF /ON	45
Sc-xx	スキャン機能の設定	OFF /ON/2C	54
2C-xx	プログラムチャンネルの登録 ^{※1}	1 ~9,10~18, 01~11,12~29	55
bP-xx	ビーブ音の ON/OFF	ON /OFF	64
tb-xx	送信ビーブ音の ON/OFF	OFF /ON	65
tt-xx	送信ビーブ音の音量調整 ^{※2}	dF /1 ~ 15	66
LE-xx	LED インジケータの ON/OFF	ON /OFF	70
LP-xx	照明ランプの設定	2 /OFF	69

基本的な操作

基本的な操作

表示	設定項目	選択項目 (太字は初期値)	ページ
AP-xx	オートパワーセーブの ON/OFF	OFF /ON	63
cS- x	コールサイン機能	1 ~ 5	51
EG-xx	外部マイク感度の設定	1/ 2 /3/AU	74
IG-xx	内部マイク感度の設定	1/ 2 /3/AU	75
cP-xx	コンパンダー機能の ON/OFF	OFF /ON	58
tP-xx	送信禁止機能の ON/OFF	OFF /ON	68
Ph-xx	PTT ホールド機能の ON/OFF	OFF /ON	67
oc-xx	VOX 機能の ON/OFF	OFF /ON	36
dL-xx	VOX 感度の設定 ^{※3}	1 ~ 9 ~ 15	37
or-xx	VOX 遅延時間の設定 ^{※3}	1 ~ 5 ~ 15	37
Ec-xx	エマージェンシー機能の設定	AL /CH/CL	42
EL-xx	エマージェンシーライト機能の ON/OFF	ON /OFF	71
Ac-xx	オートチャンネルセレクト機能の ON/OFF	OFF /ON	57
hE-xx	音質切替え機能	1 / 2	59
Sq-xx	スケルチレベル調整	1 / 2 / 3 / 4	60
EP-xx	オーディオアクセサリの設定	1 / 2	61
SP-xx	イヤホン断線チェック	ON /OFF	62
SL-xx	セレコールの呼び出し設定	OFF /ON	47
Si-xx	セレコールの ID 設定 ^{※4}	01 ~ 99	47
SG-xx	セレコールのグループ設定 ^{※4}	G0 ~ G9	48
Sb-xx	セレコールのビーブ音設定 ^{※4}	OFF /1~3	48
Pr-xx	プログラムキーの設定	00 /1U/CL/2P/EC	38
PS-xx	ワンタッチボリュームの設定	OFF /ON	39
bS-xx	スーパーセーブ 1 機能の設定	OFF /ON	72
b2-xx	スーパーセーブ 2 機能の設定	OFF /ON	73
bt-xx	バッテリーインジケータの設定	AL /nH	17
hd-xx	キーロック・ディスプレイ非表示設定	OFF /ON	24
cL-xx	クローン機能	OFF /ON	77

※ 1 : スキャン機能 (Sc) を “2C” に設定すると表示されます。

※ 2 : 送信ビーブ音 (tb) を “ON” に設定すると表示されます。

※ 3 : VOX 機能 (oc) を “ON” に設定すると表示されます。

※ 4 : セレコールの呼び出し (SL) を “ON” に設定すると表示されます。

基本的な操作

VOX 機能 ～音声で自動送信をする～

PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。話すとき送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

注意

- アクセサリーの VOX ヘッドセット SSM-64A を使用する場合は、本体の VOX 機能 (oc) を OFF に設定してください。
- スピーカーから音が出ているときは、VOX 機能は動作しません。
- この VOX 機能は本機単体で使用するもので、アクセサリーの外部マイクロホンでは使用できません。
- キーや音量ツマミを操作したときの振動がマイクに伝わり、誤送信することがあります。
- VOX 感度を上げると周囲の音で誤送信することがあります。
- PTT ホールド機能と同時に使用することはできません。

基本的な操作

■ VOX 機能を設定する

VOX 機能を使用するときは下記設定を ON にします。

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “oc-xx” を選択する。
- ④  () を押して、“oc-on” を選択する。



oF (初期値)	VOX 機能を OFF にします。
on	VOX 機能を ON にします。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

■ 通話のしかた

本機の内蔵マイクに向けて、話すとき送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

■ VOX 感度を設定する

送信状態になるときの感度を設定します。

補足 VOX 機能 (oc) を “ON” に設定すると、セットメニューに “oL” が追加されます。

注意 周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 感度を下げて（数値を小さくする）ください。

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “oL-xx” を選択する。
- ④  () を押して、VOX 感度を設定する。

1 ~ 9 (初期値) ~ 15 VOX 感度を設定します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



基本的な操作

■ VOX 遅延時間を設定する

話をやめてから待ち受け状態に戻るまでの時間を、約 0.1 秒間隔で 0.1 秒（設定値 “1”）～ 1.5 秒（設定値 “15”）の間で設定することができます。

補足 VOX 機能 (oc) を “ON” に設定すると、セットメニューに “or” が追加されます。

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “or-xx” を選択する。
- ④  () を押して、遅延時間を設定する。

1 ~ 5 (初期値) ~ 15 VOX 遅延時間を設定します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



プログラムキーの設定

■プログラムキーを設定する

- 

00 (初期値)	モニター機能を割り当てる(26 ページ)
1U	ワンタッチボリュウム機能を割り当てる (39 ページ)
CL	コール機能を割り当てる(40 ページ)
2P	セカンダリPTT 機能を割り当てる (55 ページ)
Ec	エマージェンシー機能を割り当てる (41 ページ)

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

ワンタッチボリューム機能 ～ワンタッチで音量を下げる～

この機能を ON に設定すると、動作キーは **On** に割り当てられます。
あらかじめ **■** (プログラムキー) にワンタッチボリューム (1U) を割り当てておくと、**■** が動作キーになります (38 ページ)。

On (**■**) を押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に下げることができます。

便利な機能

■ワンタッチボリュームを設定する

- ① **■** を左にまわしきり、電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら **■** を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “PS-xx” を選択する。
- ④ **▲** (**▼**) を押して、“PS-on” を選択する。



oF (初期値)	ワンタッチボリューム機能は無効になります。
on	On (■) を押すとワンタッチボリューム機能が動作します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

■ワンタッチボリューム機能を使用する

On (**■**) を押します。
セットメニューの設定が終了します。

■ワンタッチボリューム機能を解除する

いずれかの方法で解除します。

- ・ **On** (**■**) を押します。
- ・ 電源をオフにします。
- ・ 3 分経過すると自動で解除されます。

便利な機能

コール機能 ～相手をコール音で呼び出したい～

あらかじめ  プログラムキーにコール機能（CL）を割り当ててください（38 ページ）。

信号を受信した相手を、コール音「ピピピッ・・・」で呼び出すことができます。

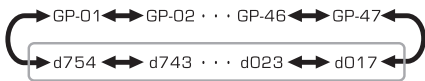
便利な機能



■ DCS コードを設定する

あらかじめ相手局と同じ DCS コードに設定してください。

- ① **MODE** を押して、グループモードまたは DCS モードにする。
- ② **MODE** を押しながら  を押します。
DCS コード設定状態になり“GP-01”が点滅します。
- ③  () を押して、仲間同士で決めた DCS コードを設定する。



DCSコード



“dc”を表示させる

- ④ **PTT** を押す。
DCS コードが設定され“dc”が表示されます。
- ⑤ 仲間同士で決めたチャンネル番号にあわせる。



■ 相手を呼び出す

 を短く押す。

信号を受信した相手をコール音「ピピピッ・・・」で、呼び出すことができます。

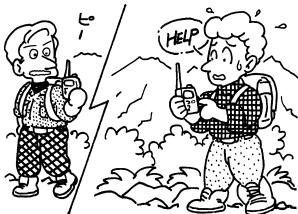


相手の信号を受信しているとき（ディスプレイに“受信”が表示されているとき）は、 を押しても「ブーブーブーブー」と警告音が鳴るだけで、コール音で呼び出すことはできません。

エマージェンシー機能 ～アラームで緊急を知らせる～

あらかじめ ☒ プログラムキーにエマージェンシー機能（Ec）を割り当ててください（38 ページ）。

自動的にスピーカー音量が最大になり、「ピーッピーッピーッ・・・」とアラーム音が鳴り続け、周囲の人に緊急を知らせることができます。



便利な機能

■エマージェンシー機能を使用する

☒ を1秒以上押す。
アラーム音が鳴り続けます。

■エマージェンシー機能を終了する

☒ を1秒以上押すか、電源を切る。

補足

- チャンネルとグループコード（DCS コードが設定されているときは“dc”）が点滅します。
- **(PTT)** を押している間、アラーム音を中断して通話することができます。また、受信側もアラーム音を中断して、受信することができます。

注意

- アラームに設定する場合は、イヤピースマイクロホン、ヘッドセット、イヤホンなどは、トランシーバーに接続しないでください。周囲に緊急を知らせることができなくなります。
- エマージェンシー機能が動作中は、**(PTT)** と ☒ を除き、すべてのキーが動作しませんので、チャンネルやモード切り替えを行うことはできません。
- 秘話モードを設定しているときにアラーム音を受信すると、アラーム音の音程は通常より少し低くなります。

便利な機能

エマージェンシー機能 ～緊急連絡用メモリーチャンネルで知らせる～

あらかじめ  プログラムキーにエマージェンシー機能 (Ec) を割り当ててください (38 ページ)。

あらかじめ決めておいた緊急連絡用メモリーチャンネルへ自動で切り替わり応答することができます。

■緊急連絡用メモリーチャンネルの登録と設定

- ①  () を押して、メモリーチャンネルにしたいチャンネル番号にあわせ、**MODE** で希望のモードに切り替える。
- ②  を左にまわしきり、電源を切る。
- ③ **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ④ **MODE** を押すたびに、セットメニューが切り替わり、“Ec-xx”を選択する。
- ⑤  () を押して、“Ec-CH”に設定する。



AL(初期値)	緊急アラーム音の動作になります。
CH	緊急連絡用メモリーチャンネルに切り替わる動作になります。
CL	緊急用コールに切り替わる動作になります。

- ⑥ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

補足

メモリーチャンネルを変更する場合は、再度上記の操作をおこない、操作⑤で“AL”に設定してください。その後、再度上記①から⑥の操作をおこない“CH”に設定してください。

■エマージェンシー機能を使用する

 を1秒以上押す。

ディスプレイとLED インジケーターが点滅します。

緊急連絡用メモリーチャンネルで通話することができます。



エマージェンシー機能が動作中にチャンネルやモードの切り替えができなくなります。

■エマージェンシー機能を終了する

 を1秒以上押すか、電源を切る。

エマージェンシー機能 ～緊急用コールで知らせる～

あらかじめ  プログラムキーにエマージェンシー機能（Ec）を割り当ててください（38 ページ）。

便利な機能

緊急用コールで他のトランシーバーを呼び出します。

■緊急用コールの登録と設定

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ②  を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③  を押すたびに、セットメニューが切り替わり、“Ec- xx”を選択する。
- ④  （）を押して、“Ec- CL”にあわせる。
- ⑤  を押す。



AL(初期値)	緊急アラーム音の動作になります。
CH	緊急連絡用メモリーチャンネルに切り替わる動作になります。
CL	緊急用コールに切り替わる動作になります。

セットメニューの設定が終了します。

■エマージェンシー機能を使用する

 を1秒以上押す。

緊急用コールは、その時点での待機チャンネルで開始されます。

LED インジケーターが点滅します。2 秒間の緊急アラーム送信、マイクによる送信 5 秒間、スタンバイ 2 秒を 10 回繰り返します。その後はアラーム音が鳴り続けます。

補足

エマージェンシー信号を受信すると、ディスプレイに呼び出し側トランシーバーのセレコール ID が表示されます。

■エマージェンシー機能を終了する

 を1秒以上押すか、電源を切る。

便利な機能

コールバック機能 ～通話可能か常時チェックしたい～

グループモード時に、コールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」、電子音とアイコンで常時チェックしながら通話ができます。

便利な機能



通話できない時は
“圏外” が点灯



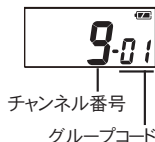
通話できる時は
“OK” が点灯



	状 況	電子音	アイコン表示
通話可能	相手と通信できる範囲にいる	約1分後に一度だけ「ピピッ」と鳴る	電子音が鳴った後“OK”が点灯する
	相手の電源が入っている		
通話不可能	相手と通信できない場所にいる	約1分後に一度だけ「ブブッ」と鳴る	電子音が鳴った後“圏外”が点灯する
	相手の電源が切れている		

■コールバック機能を設定する

- ① **[MODE]** を押してグループモードにする。
仲間同士で決めたグループコードとチャンネル番号になっているか確認します。
異なる場合は、“グループモード” (28 ページ) を参照して、同じグループコードとチャンネル番号に切り替えてください。



- ② **[]** を左にまわしきり、電源を切る。
- ③ **[MODE]** を押しながら **[]** を右にまわし、電源を入れる。
- ④ **[MODE]** を押して “cb-xx” を選択する。
- ⑤ **[]** (**[]**) を押して設定項目を選択する。コールバック機能を使用する場合は “cb-on” にする。

oF (初期値)	コールバック機能を OFF にします。
on	コールバック機能を ON します。

- ⑥ **[PTT]** を押す。
セットメニューの設定が終了し、ディスプレイに “圏外” が点灯します。
コールバック機能をオフにすると “圏外” は消灯します。
- ⑦ コールバック機能が動作する。
相手局と通話可能か定期的に自動で送信してチェックします。
通話可能であれば “OK”、通話不可能であれば “圏外” が点灯します。



便利な機能

補足

- コールバック機能が動作中、通話することも可能です。
“基本的な通話のしかた” (22 ページ) と同様に通話できます。
- 同じチャンネルで同じグループコードが他の使用者に使われているときは、“グループモード” (28 ページ) を参照して、仲間同士で他のグループコードに切り替えてください。
- 他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態 (ディスプレイに “受信” が表示) になり、通話できません。

便利な機能

セレコール機能 ～特定の局を呼び出したい～

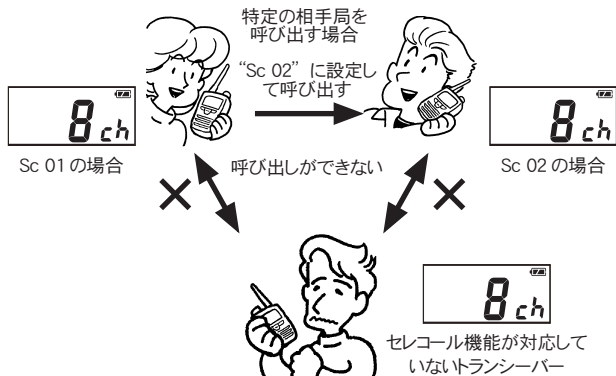
セレコールは 3 種類の呼び出しができます。

- 個別呼び出し (Sc 01 ～ Sc 99)
01 ～ 99 から選択した相手局のみ呼び出すことができます。
- グループ呼び出し (Sc G0 ～ Sc G9)
0 ～ 9 から選択したグループのみ呼び出すことができます。
- 全局一斉呼び出し (Sc AL)
一斉に呼び出すことができます。

便利な機能

補足

- 呼び出されたときは、アラームで知らせることができます。
- 機能を使用する場合は、あらかじめ仲間同士でセレコール ID とグループナンバーの設定が必要です。
- グループモードや秘話モードでもセレコール機能を使用することができます。
- セレコール機能に対応していないトランシーバーで、同じチャンネルを待ち受けしても呼び出しをすることはできません。
- FTH-307 など、旧機種では個別 ID が 20 まではしか対応していない場合があるので、複数機種間でセレコールを行う場合には、それぞれの取扱説明書をご確認ください。
- セレコール機能の運用は 49 ページを参照してください。

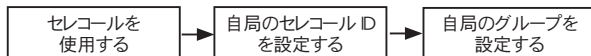


注意

電波の弱い場所やノイズの多いところでは、セレコール機能が動作しない場合があります。

■セレコールを運用する前の準備

セレコール機能を使用する前に、下記の準備をしてください。



注意 セレコール機能は下記の機能と同時に使用することはできません。セレコール機能が優先されます。

- ・コールバック機能
- ・VOX 機能
- ・オートチャンネルセレクト機能
- ・コール機能
- ・スキャン機能

■セレコールを使用する

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“SL-xx”を選択する。
- ④  () を押して、セレコール機能を ON にする。



oF (初期値)	セレコール機能を OFF にします。
on	セレコール機能を使用する場合は ON にします。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

■自局のセレコール ID を設定する

補足 セレコール機能 (SL) を“ON”に設定すると、セットメニューに“Si”が追加されます。

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“Si-xx”を選択する。
- ④  () を押して、グループを選択する。



01 (初期値) ~ 99	自局のセレコール ID を選択します。
---------------	---------------------

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

便利な機能

■ 自局のグループを設定する

補足

セレコール機能 (SL) を “ON” に設定すると、セットメニューに “SG” が追加されます。

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “SG-xx” を選択する。
- ④  () を押して、グループを選択する。

GO (初期値) ~ G9 自局のグループを選択します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



■ セレコール着信音を設定する

補足

セレコール機能 (SL) を “ON” に設定すると、セットメニューに “Sb” が追加されます。

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “Sb-xx” を選択する。
- ④  () を押して、着信音を選択する。

oF (初期値)	着信音を OFF にします。
1	ビーブ：パターン 1
2	ビーブ：パターン 2
3	ビーブ：連続

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

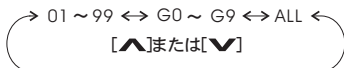


■セレコール呼び出しをする

注意 あらかじめ自局のセレコールIDを設定してください（47 ページ）。

① チャンネルスイッチをまわして、相手局と同じチャンネルにあわせる。

② **MODE** を押しながら **▼** を押す。
ディスプレイに“SCAL”が点滅し、セレコール選択画面になります。

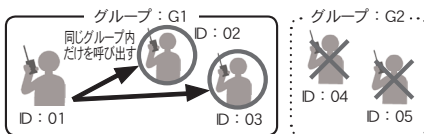


③ **▲**（**▼**）で呼び出し方法を選択する。

◎ 個別で呼び出す・・・呼び出したい相手局のセレコールID（Sc 01 ~ Sc 99）を選択します。



◎ グループで呼び出す・・・呼び出したいグループ（Sc G0 ~ Sc G9）を選択します。



◎ 全局を呼び出す・・・Sc ALを選択します。



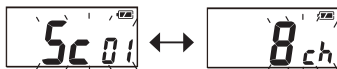
④ 上記のいずれかが表示されている時に、**PTT** を押しながら相手を呼び出す。

便利な機能

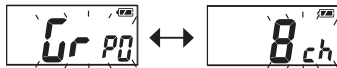
■セレコール呼び出しを受けた時

個別呼び出しとグループ呼び出しは、「着信音が鳴る」とともに、ディスプレイにセレコール表示とチャンネルが交互に点滅し着信を知らせます。

個別呼び出しを受けたとき



グループ呼び出しを受けたとき



全局呼び出しを受けたとき
(変化しない)



コールサイン機能 ～相手をコールサインで呼び出したい～

本機にコールサインを設定することができます。

最大 5 局まで設定することができ、初期値は 1 に設定されています。
仲間同士で違う番号のコールサインを設定しておくと、自局に設定した電子音の回数が相手局に送出され、誰から呼ばれたのかコールサインとして判断することができます。

■コールサインを設定する

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “cS-x” を選択する。
- ④  () を押して、コールサインを選択する。



数字	電子音
1 (初期値)	ピロッ
2	ピロッ ピロッ
3	ピロッ ピロッ ピロッ
4	ピロッ ピロッ ピロッ ピロッ
5	ピロッ ピロッ ピロッ ピロッ ピロッ

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

■相手を呼び出す

送信中に **MODE** を押す。

押している間だけ設定したコールサインを相手に送出することができます。

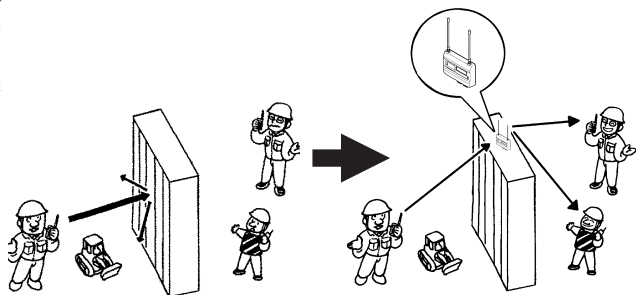
便利な機能

中継機能 ～通話距離をのばすには～

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、当社対応の中継器を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。

なお中継器の詳細については、お買い上げいただきました販売店または当社製品の国内総販売元である八重洲無線株式会社国内営業部（5ページ）にお問い合わせください。

便利な機能



注意

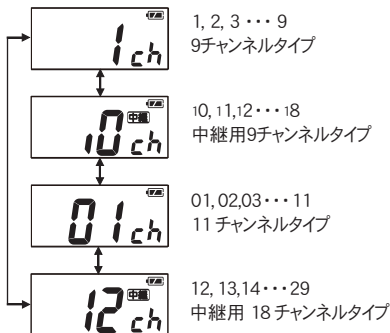
中継器を介した場合は、下記の機能を使用することができません。

- ・コールバック機能
- ・セレコール機能
- ・オートチャンネルセレクト機能
- ・クローン機能

■中継機能を設定する

下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル（合計 27 チャンネル）が追加されます。

- ①  を左にまわしきり、電源を切る。
- ②  を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
- ③  () を押すたびに、チャンネル番号が変わる。



■設定を解除する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ②  を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。

■通話のしかた

- ①  () を押して、中継用チャンネルの中で中継器と同じチャンネル番号にあわせる。
- ② “基本的な通話のしかた”（22 ページ）と同様に通話する。

補足

- グループモードを使用することができます（中継器と同じグループコードにあわせてください）。
- (PTT) を押すと「ピッ」と音が鳴り、ディスプレイに“通話”が点灯します。“通話”が点灯中に話をする、お互い音声途切れず交信することができます。交信中“通話”が消灯したら、再度 (PTT) を押して“通話”が点灯してから話をしてください。
- 当社指定の中継器のみ使用可能です。



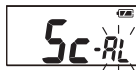
その他の機能設定

スキャン機能 ～全チャンネルで受信信号を探す～

自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなると、約 10 秒後に再びスキャンを開始します。

■スキャン機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “Sc-xx” を選択する。
- ④  () を押して、“Sc-AL” を選択する。



oF (初期値)	スキャン機能を OFF にします。
AL	全チャンネルをスキャンします。
2c	2つのチャンネルをスキャンします。

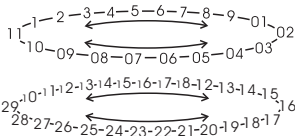
- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

■スキャンを開始する

On を押しながら  () を押す。
チャンネルをスキャンすることができます。

補足

スキャンを開始したチャンネルからスキャンします。



中継機能用チャンネルが追加された場合、中継機能用チャンネルからスキャンを開始すると中継機能用チャンネルのみスキャンします。

■スキャンを止める

MODE または **PTT** を押す。

デュアルレシーブスキャン機能 ～ 2 つのチャンネルを切り替えて受信信号を探す～

現在の通話チャンネルとあらかじめ登録したプログラムチャンネルを交互に切り替えながら信号を探す機能です。信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなると、約 10 秒後に再びスキャンを開始します。

デュアルレシーブスキャン中に PTT スイッチを押すと、現在スキャン中のチャンネルで送信します。また、 に「セカンダリ PTT」を登録 (38 ページ) しておくと、 が登録したチャンネルでの PTT スイッチとして動作します。このため、現在のスキャン中チャンネルに関わらず、 を押すと待機チャンネルで、また  を押すと登録したチャンネルで通話を開始することができます。

その他の機能設定

■スキャン機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ②  を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③  を押して “Sc-xx” を選択する。
- ④  () を押して、“Sc-2c” を選択する。



oF (初期値)	スキャン機能を OFF にします。
AL	全チャンネルをスキャンします。
2c	2 つのチャンネルをスキャンします。

- ⑤  を押す。
セットメニューの設定が終了します。

次ページへ続く

その他の機能設定

■プログラムチャンネルの登録

補足

スキャン機能 (Sc) を “2c” に設定すると、セットメニューに “2C” が追加されます。

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “2C-xx” を選択する。
- ④  () を押して、チャンネルを選択します。



1 (初期値) ~ 9	1 ~ 9 チャンネルから選択します。
10 ~ 18	中継用 10 ~ 18 チャンネルから選択します。
01 ~ 11	01 ~ 11 チャンネルから選択します。
12 ~ 29	中継用 12 ~ 29 チャンネルから選択します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

■デュアルチャンネルスキャンを開始する

On を押しながら  () を押す。

■通話チャンネルで送信する

PTT を押しながらマイクに向かって話します。

■プログラムチャンネルで送信する

 を押しながらマイクに向かって話します。

補足

あらかじめ、プログラムキーにセカンダリ PTT 機能を割り当ててください (38 ページ)。

■デュアルレシーブスキャンを止める

MODE を押す。

または **On** を押しながら  () を押す。

オートチャンネルセレクト機能 ～空チャンネルを探す～

(PTT) を押すたびに、誰も使用していないチャンネルを自動で探し出し、相手局と交信することができます。

補足

自分と相手のトランシーバーを同じ設定にしてください。

- ・グループモードに設定し、グループ番号(またはDCSコード)を合わせる。
- ・オートチャンネルセレクト機能を ON する。

注意

オートチャンネルセレクト機能は下記の機能と同時に使用することはできません。オートチャンネルセレクト機能が優先されます。

- ・スキャン機能
- ・コールバック機能

その他の機能設定

■オートチャンネルセレクト機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **[MODE]** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **[MODE]** を押して “Ac-xx” を選択する。
- ④  () を押して、“Ac-on” に設定する。



oF (初期値)	オートチャンネルセレクト機能を OFF にします。
on	オートチャンネルセレクト機能を ON にすると、チャンネル表示が “AU” に変わります。

- ⑤ **(PTT)** を押す。
セツメニューの設定が終了し、チャンネル表示が “AU” に変わります。

■オートチャンネルセレクト機能を開始する

(PTT) を押して、一呼吸おいてから通話する。
押した瞬間に、誰も使用していないチャンネルを自動的に探します。



グループコード

その他の機能設定

コンパnder機能 ～バックノイズを軽減する～

相手が話しているときに聞こえる「サー」というバックノイズを軽減し、相手の音声を聞き取りやすくします。

補足 相手のトランシーバーも、コンパnder機能をONにしてください。

■コンパnder機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。

- ③ **MODE** を押して“cP-xx”を選択する。
- ④  () を押して、cP-on”を設定する。

oF (初期値)	コンパnder機能を OFF にします。
on	コンパnder機能を ON にします。



- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

音質切り替え機能

～高域が効いたメリハリのある音質で受信する～

初期値は高域をカットした音声のみを強調した音質で受信します。相手がバックノイズの多い場所などで運用しているときに効果を発揮します。
“1” に設定すると、高域が効いたメリハリのある音質で受信します。

■音質切り替え機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “hE-xx” を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。



1	高域が効いたメリハリのある音質になります。
2 (初期値)	高域をカットした音質になります。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

その他の機能設定

スケルチレベル設定 ～耳障りなノイズを消す～

信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズ（「ザーツ」音）を消すことができます。

補足

- 雑音の多い場所（繁華街や電気設備の近くなど）で使用している場合など、通話が無いのにスケルチが時々開いて耳障りなときに調整してみてください。
- スケルチレベルを上げすぎるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感なくなることがありますので、必要に応じて調節してください。
- 数字が大きいほどレベルが高くなります。

■スケルチレベルを設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “Sq-xx” を選択する。
- ④  （  ） を押して、レベルを設定する。



1（初期値）	スケルチレベル - 小
2	スケルチレベル - 中
3	スケルチレベル - 大
4	スケルチレベル - 最大

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

オーディオアクセサリの設定

“1”（初期値）の設定は、アクセサリコネクタにアクセサリ（スピーカーマイクロホンやタイピンマイク）を接続して、アクセサリのPTT スイッチを押すと、アクセサリ側のマイクで送信します。また、本体の **(PTT)** を押すと本体側のマイクで送信します。

“2” の設定は、スピーカーマイクロホンやタイピンマイクのスピーカー（またはイヤホン）が断線したときに、応急用としてお手持ちのスマートフォン用イヤホンを使用する場合に設定します。通話する場合は、トランシーバーのマイクで PTT スイッチを押して送信してください。



全てのイヤホンが使用できる保障はございません。あくまでも応急用ですので、弊社アクセサリのご使用を推奨します。

その他の機能設定

■オーディオアクセサリを設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **[MODE]** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **[MODE]** を押して“EP-xx”を選択する。
- ④  （  ）を押して、設定項目を選択する。



1（初期値）	アクセサリ（スピーカーマイクロホンやタイピンマイク）を接続
2	スマートフォン用イヤホンを接続

- ⑤ **(PTT)** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

イヤホン断線チェック

接続しているアクセサリーのスピーカー・マイクロホンやタイプンマイクのスピーカー（またはイヤホン）が断線している場合、本機の電源を入れたときに“Er”とディスプレイに表示し警告します。



■イヤホン断線チェックを設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“SP-xx”を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。
- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



oF	イヤホン断線チェックを OFF にします。
on (初期値)	イヤホン断線チェックを ON にします。

オートパワーセーブ機能 ～電源切り忘れ防止～

2時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にします。1分前に「ブブッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。

■オートパワーセーブ機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “AP-xx” を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。
ON に設定すると、ディスプレイに  が点灯します。

oF (初期値)	オートパワーセーブの設定を OFF にします。
on	オートパワーセーブの設定を ON にします。

- ⑤ **(PTT)** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



その他の機能設定

その他の機能設定

ビープ音の設定 ～キー操作確認音～

キーを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。

補足

初期値は ON に設定されています。

ビープ音が耳障りなときは OFF に設定してください。

■ビープ音を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。

③ **MODE** を押して “bP-xx” を選択する。

④  () を押して、設定項目を選択する。



on (初期値)	ビープ音の設定を ON にします。
oF	ビープ音の設定を OFF にします。

⑤ **PTT** を押す。

セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

送信ビープ音の設定 ～送信操作確認音～

PTT を押して送信を始めた際に電子音が鳴り、送信状態になったことを音で確認することができます。

補足

送信ビープ音 (tb) の設定を“ON”にすると、セットメニューに“tt”が追加され、送信ビープ音の音量を調整することができます (66 ページ)。

■送信ビープ音を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“tb-xx”を選択する。
- ④  () を押して、“tb-on”を選択する。



oF (初期値)	“通話”表示が無いときに送信ビープ音が鳴ります。
on	“通話”表示の有無に関わらず送信ビープ音が鳴ります。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

その他の機能設定

送信ビーブ音の音量調整設定

PTT を押して送信を始めた際の送信ビーブ音の音量を調整することができます。

補足

送信ビーブ音 (tb) の設定を “ON” にすると、セットメニューに “tt” が追加されます。

■送信ビーブ音の音量調整を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “tt-xx” を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。



dF (初期値)	送信ビーブの音量が音量ツマミと連動します。
1~15	設定された音量で送信ビーブ音が鳴ります。数字が大きくなるほど音量が大きくなります。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

PTT ホールド機能（内蔵マイクのみ）

初期値は **PTT** を押している間送信し、放すと待ち受けの状態になりますが、ON に設定して **PTT** を一度押すと連続送信状態（最大3分間）となり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻るホールド機能付き PTT スイッチとして動作します。

注意 外部マイクの PTT スイッチでは、この機能は動作しません。

補足

- 送信が 2 分 30 秒経過するとディスプレイにカウントダウンを開始して、10 秒前に「ピピピッ」と予告音が鳴り、3 分経過すると待ち受けに戻り約 2 秒間「プープープープー」と警告音が鳴り送信できません。送信したい場合は、警告音が鳴り終わってから **PTT** を押してください。
- **MODE** を押しながら **PTT** を押すと、自動送信復帰機能が動作します。基本動作は同様ですが、連続送信が 3 分経過すると一旦待ち受け状態になり、そのチャンネルで他に使用者がいなければ、約 2 秒後に自動で送信状態に戻ります。この動作を自動で繰り返します。自動送信復帰機能が動作しているときには、通話アイコンが点滅しています。

その他の機能設定

■ PTT ホールド機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“Ph-xx”を選択する。
- ④ （）を押して、設定項目を選択する。



oF（初期値）	PTT ホールド機能を OFF にします。
on	PTT ホールド機能を ON にします。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

送信禁止機能

～ガイドシステム子機として使用時に便利～

来場者にトランシーバーを貸し出して遠隔で説明などを行うガイドシステムや、アルバイトなどで指示を受けるだけの受信専用機としての使用が可能です。

■送信禁止機能を設定する

ONに設定すると、**(PTT)**を押しても「プープー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“Err”と表示されて送信できません。

その他の機能設定

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **[MODE]** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ② **[MODE]** を押して“tP-xx”を選択する。
- ③  () を押して、設定項目を選択する。



oF (初期値)	送信禁止機能を OFF にします。
on	送信禁止機能を ON にします。

- ④ **(PTT)** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

照明ランプの設定

キーを押したとき、2 秒間ディスプレイの照明が点灯します。OFF にすると、照明ランプは常時消灯します。

■照明ランプを設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“LP-xx”を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。

2 (初期値)	照明ランプが約2秒間点灯します。
oF	照明ランプを常時消灯します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



その他の機能設定

その他の機能設定

LED インジケータの設定

通常は ON に設定されており、送信時（赤色）、受信時（緑色）に LED インジケータが点灯します。OFF にすると、LED インジケータは常時消灯します。

■ LED インジケータを設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“LE-xx”を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。



oF	LED インジケータを常時消灯します。
on (初期値)	送信時、受信時に LED インジケータを点灯します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

エマージェンシーライトの設定

通常は ON に設定されており、エマージェンシー機能の動作時に LED インジケーターが赤色・緑色交互に点滅します。OFF にすると、LED インジケーターは点滅しません。

■エマージェンシーライトを設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“EL-xx”を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。

oF	エマージェンシー機能の動作時、LED インジケーターは点滅しません。
on (初期値)	エマージェンシー機能の動作時、LED インジケーターが赤色・緑色交互に点滅します。



その他の機能設定

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

スーパーセーブ 1 機能の設定

待ち受け状態で約 2 秒間キー操作がないときに電池の消耗を抑えるスーパーセーブ 1 機能を設定することができます。待ち受け時間の消費電流を最小化して電池の持ちを改善します。

使用できる時間の目安は次のとおりです。本機には2種類のスーパーセーブモードが導入されており、お客様の用途に応じて電池の持ち時間を最適化することができます（スーパーセーブ 2 については次ページ参照）。

持続時間の目安

スーパーセーブ機能	単 3 形アルカリ乾電池 (日本製の場合)	ニッケル水素電池 (FNB-148)
スーパーセーブ 1/2 OFF※ ¹	約 47 時間	約 47 時間
スーパーセーブ 1 のみ※ ²	約 50 時間	約 50 時間
スーパーセーブ 2 のみ※ ³	約 52 時間	約 52 時間
スーパーセーブ 1 / 2 両方※ ^{2,3}	約 60 時間	約 60 時間

※ 1：定格 250mW で 10 秒送信、10 秒受信、80 秒待ち受けの測定条件

※ 2：スタンバイ時のスリープ時間を長く設定

※ 3：スピーカー出力を 100mW に制限

■スーパーセーブ 1 機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “bS-xx” を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。



oF (初期値)	スーパーセーブ 1 機能を OFF にします。
on	スーパーセーブ 1 機能を ON にします。

補足

ON に設定すると、受信中頭切れを起こすことがあります。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

スーパーセーブ 2 機能の設定

受信時の音量を小さくして電池の消耗を抑えるスーパーセーブ 2 機能を設定することができます。イヤホン使用時や比較的静かな所での使用時に発揮できるセーブ機能です。

■スーパーセーブ 2 機能を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “b2-xx” を選択する。
- ④  () を押して、設定項目を選択する。

oF (初期値)	スーパーセーブ 2 機能を OFF にします。
on	スーパーセーブ 2 機能を ON にします。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。



その他の機能設定

その他の機能設定

外部マイク感度の設定

イヤホンマイク、リモートスピーカーマイクなど、外部マイクの感度を調節します。数字が大きくなるほど感度は上がります。

■外部マイクの感度を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“EG-xx”を選択する。
- ④  () を押して、マイク感度を選択する。



1	外部マイクの感度 - 小
2 (初期値)	外部マイクの感度 - 標準
3	外部マイクの感度 - 大
AU	音声の大小に応じて自動で適切な感度を調整します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

内部マイク感度の設定

トランシーバー本体に内蔵してあるマイクの感度を調節します。
数字が大きくなるほど感度は上がります。

■内部マイク自動感度切り替えを設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して “IG-xx” を選択する。
- ④  () を押して、マイク感度を選択する。



その他の機能設定

1	外部マイクの感度 - 小
2 (初期値)	外部マイクの感度 - 標準
3	外部マイクの感度 - 大
AU	音声の大小に応じて自動で適切な感度を調整します。

- ⑤ **PTT** を押す。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

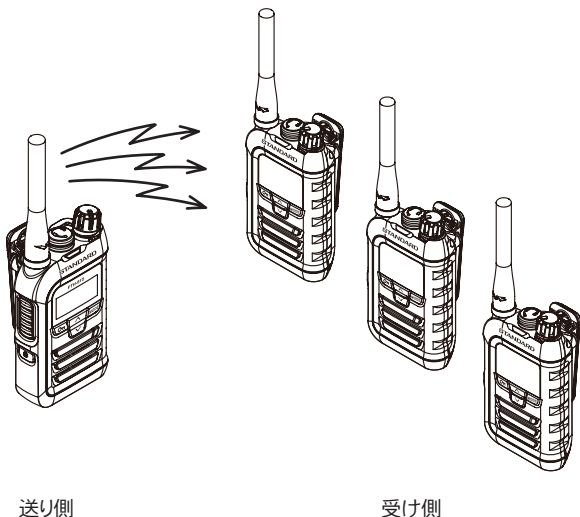
クローン機能 ～同じ設定に複製する～

送り側に設定してある内容をワイヤレスで複数台一斉にコピーすることができます。

コピーできる設定内容は下記ようになります。

- ◎ 現在設定しているチャンネル / グループコード / DCS コード
- ◎ 現在設定している通話モード（ノーマル / グループ / 秘話）
- ◎ セットメニューの設定内容

その他の機能設定



注意

- 雑音の多い場所でクローン機能を行うと正常にコピーできない場合があります。
- 送り側と受け側を 1m 以内に近づけた状態で、クローンを行ってください。
- クローン機能は FTH-615/-615L 同士のみ使用することができます。

■クローン機能を設定する

1 受け側を設定する

- ①  を左にまわしきり電源を切る。
- ② **MODE** を押しながら  を右にまわし、電源を入れる。
- ③ **MODE** を押して“cL-xx”を選択する。
- ④  () を押して、“cL-on”を選択する。



oF (初期値)	クローン機能を OFF にします。
on	クローン機能を ON にします。

- ⑤ **PTT** を押す。
ディスプレイに“CCcL”が表示される。

2 送り側を設定する

- ⑥ 受け側と同様、手順①～⑤の操作を行う。
- ⑦ **PTT** を押す。
データが送出されます。

補足

- 受け側は正常にコピーされると「ピッ」と音がして、コピーされたチャンネルをディスプレイに表示します。
- “CCcL”のまま変化しない場合は、再度 **PTT** を押すと送り側からデータが送出されます。

- ⑧ 電源を切る。
セットメニューの設定を終了します。
受け側も電源を切ります。

補足

電源を OFF にすることで、クローン機能は OFF になりますので、セットメニューで OFF にする必要はありません。

故障かな？ と思うまえに...

間違った操作をしていませんか？

修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ 電源が入らない！

- ・ 電池は正しく取り付けられていますか？
電池の極性（＋）（－）をご確認ください。
- ・ 電池は消耗していませんか？
- ・ アクセサリーのニッケル水素電池（FNB-148）は十分に充電してありますか？

◎ 送信できない！

- ・ 通話（PTT）スイッチを正しく押していますか？
- ・ 送信禁止機能が ON になっていませんか？
- ・ PTT ホールド機能が ON のときに、外部マイクを使用していませんか？
- ・ 相手が話中ではありませんか？
信号を受信してディスプレイに“受信”が点灯しているときは、送信できません。
- ・ 外部マイク使用の場合、きちんと緩みなく接続されていますか？

◎ 通話できない！

- ・ 相手と同じ通話モード（ノーマルモード・グループモード・秘話モード）に設定していますか？
- ・ 相手と同じチャンネルに設定していますか？
- ・ 相手と同じグループコード（または DCS コード）に設定していますか？
- ・ 相手との距離が離れすぎていませんか？

◎ 勝手に電源が切れる！

- ・ オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？
- ・ 電池が消耗していませんか？
- ・ アクセサリーのニッケル水素電池（FNB-148）は十分に充電してありますか？

◎ グループモードで運用中に他の人の通話が聞こえる！

- ・ モニター機能になっていませんか？
電源を切り、再度電源を入れると解除されます。
- ・ 他の人も同じグループコードや DCS コードを使用している場合があります。
グループコードまたは、DCS コードを変えてください。

定 格

送受信周波数：1ch～9ch： 422.2000MHz～422.3000MHz
(12.5kHzステップ) 01ch～11ch：422.0500MHz～422.1750MHz

制御チャンネル：422.1875MHz

中継装置使用時：

10ch～18ch：

送信 440.2625MHz～440.3625MHz

受信 421.8125MHz～421.9125MHz

12ch～29ch：

送信 440.0250MHz～440.2375MHz

受信 421.5750MHz～421.7875MHz

電 波 型 式：F3E/F2D

通 信 方 式：単信および半複信方式

送 信 出 力：10mW 以下（電波法施行規則第6条適合）

受 信 感 度：－13dB μ V 以下（@ 12dB SINAD）

低 周 波 出 力：250mW 以上（@ 4 Ω 、250mW 時歪率 10% 以下）

電源電圧 2.4V 時

動作温度範囲：－10℃～＋50℃

定 格 電 圧：DC 2.4V

動作電圧範囲：DC 2.0V～3.3V

本 体 寸 法：54×86×29mm

（幅×高さ×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず）

本 体 重 量：FTH-615：約 106g

FTH-615L：約 108g

（ベルトクリップおよび電池を含まず）

RoHS 指令準拠

この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。

アクセサリ

- ◎ 充電式ニッケル水素電池 FNB-148
- ◎ 急速充電器セット VAC-73 (CD-73 + PA-57A)
- ◎ 防浸型スピーカーマイクロホン MH-73A4B[※]
- ◎ スピーカーマイクロホン MH-57A4B[※]
- ◎ イヤホンアダプター CT-101[※]
- ◎ アンテナバンド(赤色) 12 個入り S8003159
- ◎ アンテナバンド(青色) 12 個入り S8003161
- ◎ アンテナバンド(黄色) 12 個入り S8003163
- ◎ アンテナバンド(橙色) 12 個入り S8003165
- 付 ◎ アンテナバンド(緑色) 12 個入り S8003167
- 録 ◎ VOX ヘッドセット SSM-64A[※](八重洲無線製)
- ◎ タイピンマイク EK-313-107[※](八重洲無線製)
- ◎ 小型タイピンマイク MH-381A4B[※](八重洲無線製)

注意

※：ねじ込み式の防水コネクターを使用しているため接続をするときは、十分に締めこんでご使用ください。
締め込みが不十分な場合、接触不良を起こし通話できないことがあります。
また、防水性能を確保することもできません。

補足

カタログ及びその他の最新情報は当社製品の国内総販売元である八重洲無線株式会社のホームページ <http://www.yaesu.com/jp/> を参照してください。

キー操作早見表

スイッチ / キー	動作
	電源の ON/OFF（音量調節）
	・通話モードの切り替え（CTCSS/DCS、秘話） ・セットメニュー項目設定（セットメニュー時）
	・キーロック（長押し） ・キーロック及びディスプレイ非表示（長押し） （セットメニュー hd “ON” 時） ・ワンタッチボリューム （セットメニュー PS “ON” 時） ・セットメニュー項目後退（セットメニュー時）
	・モニター（初期値設定） ・ワンタッチボリューム（任意設定） ・デュアルレシーブ（任意設定） ・エマージェンシー（任意設定）
	チャンネルのアップ（長押し：早送り）
	チャンネルのダウン（長押し：早送り）
 （押しながら）→ 	セットメニューの操作
 （押しながら）→ 	グループ / DCS モードの設定
 （押しながら）→ 	自動 PTT ホールド機能 （セットメニュー Ph “ON” 時）
 （押しながら）→ 	キーロック及びディスプレイ非表示
 （押しながら）→  （  ）	スキャン / デュアルレシーブの開始 （セットメニュー Sc “AL” または “2c” 時）
 （押しながら）→ 	中継機能チャンネル追加・削除
 （押しながら）→ 	モニター
 （押しながら）→ 	グループモード / DCS モードの設定
 （押しながら）→ 	コールサントーン送信
 +  +  +  → 	ファクトリーリセット

記号

◇キー	21, 22
▽キー	21, 22

C

CD-73	80
-------	----

D

DCS コード	30
---------	----

F

FNB-148	17, 18, 19, 80
---------	----------------

I

IP66	15
IP67	15

L

LED インジケータ	21, 34, 70, 71
------------	----------------

M

MODE キー	8, 21
---------	-------

P

PA-57A	80
PTT	8, 20
PTT ホールド機能	67

V

VAC-73	19, 80
VOX 機能	35, 36, 37

あ

相手をコール音で呼び出したい	40
相手をコールサインで	

呼び出したい	51
--------	----

アクセサリ	12, 80
-------	--------

アクセサリ

コネクターカバー	12, 15, 21
----------	------------

アップキー	21, 22
-------	--------

アラームで緊急を知らせる	41
--------------	----

アルカリ乾電池	16, 17, 18, 19
---------	----------------

安全上のご注意	9
---------	---

アンテナ	4, 10, 12, 13, 20
------	-------------------

い

イヤホン断線チェック	62
------------	----

え

エマージェンシー機能	35, 38, 41
エマージェンシーライト	35, 71

お

オーディオアクセサリの設定	61
---------------	----

オートチャンネルセレクト機能	35, 57
----------------	--------

オートパワーセーブ	21, 35, 63
-----------	------------

同じ設定に複製する	76
-----------	----

お使いになる前に	16
----------	----

音質切り替え機能	59
----------	----

音声で自動送信をする	36
------------	----

音量ツマミ	20, 22, 66
-------	------------

か

ガイドシステム子機として使用	68
----------------	----

外部マイク感度の設定	74
------------	----

各部の名称と機能	20
----------	----

空チャンネルを探す	57
-----------	----

き

キー操作確認音	64
---------	----

キー操作について	8
----------	---

キー操作早見表	81
---------	----

基本的な操作	22
--------	----

基本的な通話のしかた	22
------------	----

急速充電器	19, 80
-------	--------

緊急連絡用メモリーチャンネル	42
----------------	----

く

グループコード	21, 27, 30, 41
---------	----------------

グループモード	27, 28, 40
---------	------------

クローン機能	76
--------	----

け

警告と注意マークについて	8
--------------	---

こ

高域をカットした受信音にする	59
----------------	----

コール機能	38, 40
-------	--------

コールサイン機能	35, 51
----------	--------

コールバック	21, 34, 44
--------	------------

故障かな?と思うまえに	78
-------------	----

コンバンダー機能	35, 58
----------	--------

持続時間.....	18
受信信号を探す.....	54, 55
照明ランプの設定.....	34, 69

す

スキャン機能.....	54
スケルチレベル設定.....	60
ストラップバー.....	7, 16
スーパーセーブ 1 機能.....	18, 72
スーパーセーブ 2 機能.....	18, 73
スピーカー.....	21

せ

正常に動かない.....	7
製品の安全性.....	9
セットメニュー.....	34
セットメニュー一覧.....	34
セレクト機能.....	46

そ

送信禁止機能.....	68
送信操作確認音.....	65
送信ビープ音の音量調整.....	66
送信ビープ音の設定.....	65
その他の機能設定.....	54

た

ダウンボタン.....	8, 21, 22
正しくご使用いただくために.....	6

ち

チャンネル.....	21, 22, 81
中継機能.....	52, 81
中継チャンネル.....	21, 53

つ

通話可能か常時チェックしたい.....	44
通話距離をのばすには.....	52
通話チャンネル.....	55
通話モード.....	27

て

定格.....	79
ディスプレイを非表示にする.....	24
デュアルレシーブスキャン機能.....	55

電源切り忘れ防止.....	63
電源スイッチ.....	8, 20
電磁波による影響.....	9
電池残量.....	18, 21
電池の入れかた.....	16
電池の持続時間.....	18
電池の取り扱い.....	14, 19
電池を入れるフタ.....	16, 20
電波干渉について.....	6

と

特定の局を呼び出したい.....	46
取扱い上のお願ひ.....	13

な

内部マイク感度の設定.....	75
-----------------	----

に

ニッケル水素電池.....	16, 80
ニッケル水素電池のリサイクル.....	14

の

ノーマルモード.....	22, 27
--------------	--------

は

バッテリーインジケーターの設定.....	17
バックノイズを軽減する.....	58
ハンドストラップの取り付け.....	16

ひ

ビープ音の設定.....	64
秘話モード.....	21, 27, 32

ふ

ファクトリーリセット.....	7, 81
付属品.....	7
プログラムキー.....	8, 20, 38
プログラムチャンネル.....	34, 55, 56

へ

ベルトクリップ.....	7, 16, 20
便利な機能.....	38

ほ

防水性能について.....	15
保証と責任.....	4
本文中のマークについて.....	8

索引

ま

マイク..... 21

マイク感度..... 74, 75

み

耳障りなノイズを消す..... 60

め

免責事項..... 6

も

モードキー..... 8, 21, 81

目次..... 2

モニター..... 20, 26, 38, 81

り

リセット..... 7, 81

ろ

ロック..... 8, 20, 21, 24, 81

索引

わ

ワンタッチポリウム機能 .. 35, 39, 81

This image shows a full page of a document template designed for handwritten notes or answers. It features a series of evenly spaced, horizontal grey lines extending across the entire width of the page. The lines are thin and light, providing a guide for writing without being distracting. There are no margins, headers, footers, or other markings present on the page.

<< 無料修理規定 >>

1. 取扱説明書、本体貼り付けラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合は、保証期間内（お買い上げ日より1年間）無料修理をさせていただきます。
 2. 保証期間内に無料修理をご依頼される場合は、お買い上げの販売店へ製品と本保証書をご持参・ご提示の上、お申し付けください。
 3. 保証期間内であっても、次の場合には有料となります。
 - (1) 本保証書のご提示がない場合。
 - (2) 本保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名の記入がない場合。
 - (3) 使用上の誤り、不当な修理・調整・改造による故障およびそれらが原因により生じた故障、または故障の原因が本製品以外の機器にある場合。
 - (4) お買い上げ後の取付場所の移動・輸送・落下等による故障および損傷。
 - (5) 火災・地震・風水害・落雷・その他の天変地異・異常電圧などによる故障および損傷。
 - (6) 他の要因（アンテナの不備・電波障害・設置場所など）により正常に動作しない場合。
 - (7) 消耗部品（バッテリーなど）に関するものの交換。
 4. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
(This warranty is valid only in Japan.)
- この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権限を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または八重洲無線株式会社国内営業部にお問い合わせください。
 - 修理・保証のお問合せ先：
販売元：八重洲無線株式会社 国内営業部
〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8
天王洲パークサイドビル
電話：03-6711-4055
URL：<http://www.yaesu.com/jp/>

開発製造：バーテックススタンダードLMR合同会社
a Motorola Solutions Company

お客様の個人情報保護について

お客様のお名前・ご住所・電話番号などの個人情報を第三者に開示、または提供することは一切ありません。
お客様の情報は今後、当社および八重洲無線株式会社の顧客管理のみに使用させていただきます。



STANDARD 保証書

持込修理

お客様の正常な使用状況で万一故障した場合は、「無料修理規定」（裏面参照）により無料修理させていただきます。

お客様へのお願い

お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・トランシーバーの製造番号（本体に記載）をご記入ください。

販売店様へのお願い

お買い上げ日・貴店名・住所・電話番号を記入のうえ、お客様へお渡しください。

※印の欄は、必ずご記入ください。

ご記入の際は、ボールペン等ではっきりと読みやすくご記入ください。

機種名

製造番号 (SER NO.)

FTH-615/-615L

※ お買い上げ年月日

年

月

日

保証期間（お買い上げ日より）

1 年（本体）

- 修理はお買い上げの販売店へ必ず本保証書を添えてご依頼ください。
- 修理・調整には計測器を必要とするため、出張修理は行いません。
- 本保証書は再発行しませんので、大切に保管してください。

※ お客様記入欄

ご住所 〒

お名前

電話番号

※ 販売店

店名

住所

電話番号